

令和3年度第2回ミニ自然観察会実施結果報告

日 時：令和3年6月5日 午後2時から午後3時まで

テーマ：初夏の花と昆虫

結 果： ミニ自然観察会は、来館者を対象にセンターの野外で、1時間程度の自然観察会を企画したものです。今回は初夏の植物を主テーマに観察を行いました。

池では水中に生きる食虫植物である、イヌタヌキモを観察しました。葉に付いているたくさんの袋は、水中にいるミジンコなどの小動物を捕獲する袋で、袋の中が黒いのは捕獲された動物であることを学びました。そして、ウキヤガラでは、抽水植物の地下茎がどのようなになっているかを観察し、太い地下茎の中はスポンジ状になっていて、根に空気を送る管でもあることを学びました。小さな子供たちは観察に飽きたのか、ツボミオオバコを取り、オオバコ相撲を行っていました。

次に、霞ヶ浦で見られる砂浜植物のハマヒルガオとハマエンドウを観察しました。

ハマヒルガオの花はヒルガオに似ていますが、葉の厚さが厚く、葉の表面に光沢があることを確認して、それが海岸植物の特徴であることを学びました。

そして、足元で白い花を咲かせている小さな植物、ツメクサを観察しました。シロツメクサと比較して、両方とも「ツメクサ」と名がついているが、シロツメクサは昔ガラスを輸入する時に緩衝材として入っていたので、「詰める草」、ツメクサは葉が切った爪の形をしているので、「爪草」であり、同じ「ツメクサ」でも意味が違うことを学びました。その近くで子供たちが、トウグミの実を発見して駆け寄り、実をとって食べ始めました。トウグミの実は甘くて食べられますが、皮が渋いです。

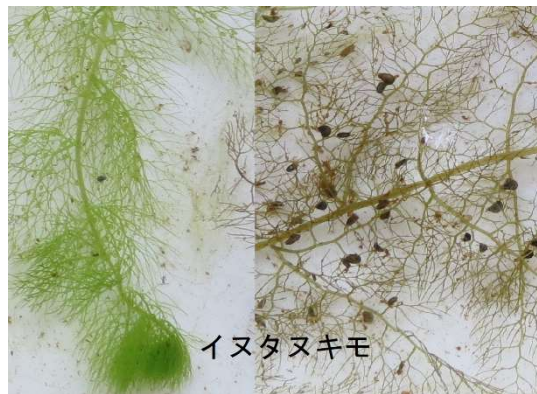
トクサを触り、ザラザラしていることを確認し、このザラザラを利用して、漆塗りをする時に、これで表面を磨いて光らせるのに利用することを学びました。

他にもドブガイやナミアゲハ、アゼナルコ、ハンノキの実、ウメの実、ウドなどを観察しました。

当日の様子を紹介します。



トウグミ



イヌタヌキモ

イヌタヌキモ



ハマヒルガオ